

腸管出血性大腸菌（O157など） 感染症にご注意を！

夏場に入るとO157などの腸管出血性大腸菌感染症の患者が多く報告されます。

腸管出血性大腸菌に関する予防のポイントをよく知って、感染ないようにしましょう。

○腸管出血性大腸菌の特徴及び症状

▶特徴

- 腸管出血性大腸菌は、牛などの動物の腸管内に生息しており、血清型によりさらに分類されます。（多くを占めるO157の他にO26、O111、O128やO145などがあります。）
- ヒトの体内でVero毒素を産生し、感染力が強く、少量の菌（約100個）でも感染することがあります。

▶症状

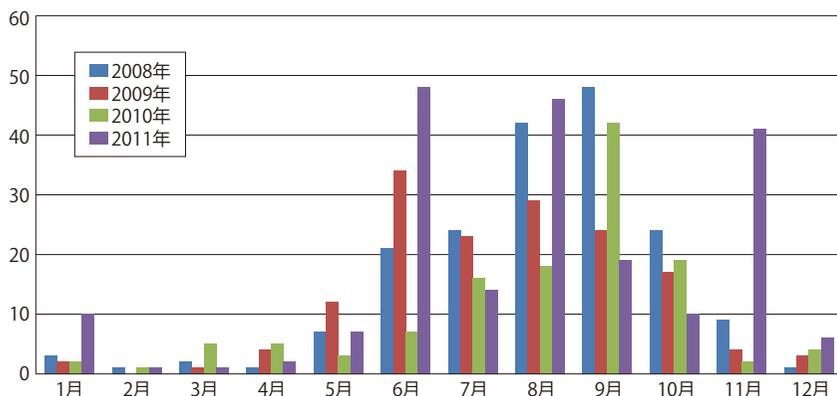
- 潜伏期間:2～14日（2～5日が最も多い）
- 症状:水様性の下痢や血便、発熱、嘔吐。合併症として溶血性尿毒症症候群（HUS）を発症する場合があります、重篤な場合には死に至ることもあります。

○腸管出血性大腸菌の感染を予防するポイント

1. 飲食の前にはかならず手洗いを行い、感染防止に注意しましょう。
2. 肉を調理する場合は「生肉を扱う箸」と「焼けた肉を扱う箸」とを必ず分けましょう。
3. 腸管出血性大腸菌は加熱に弱いので、肉類は中心部まで十分に加熱してから食べましょう。
4. 食事の前や、牧場などで動物・柵・土などに触れたら必ずせっけんを使用し、十分に手を洗いましょう。

水様性の下痢や血便などの症状がある場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

腸管出血性大腸菌感染症の月別発生数（千葉県）



お問い合わせ 千葉県健康福祉部疾病対策課感染症対策室 TEL 043 (223) 2691 (直通)